

府立中央聴覚支援学校

校長 北口 直樹

准校長 羽山 尚一

准校長 彌永 美佳

平成 31 年度学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創始者の建学精神「適切な教育を受けることによって、人生の幸福をつかむことができる」をもとに、めまぐるしく変革している社会で、子どもたちが豊かな人間性と社会性を育み、自立と社会参加及び貢献ができるよう、一人ひとりに応じた教育実践ができる学校をめざします。

- 1 地域と協感し、より安全で安心して学ぶことができる学校
- 2 家庭と共感し、子どもたちの夢がかなえられる学校
- 3 地域の学校園への橋感となり、様々なニーズに対し適切に支援できる学校

2 中期的目標

- 1 安全で安心して学べる学校づくりを進める。
 - (1) 関係機関等と連携し安全に対する意識変革を行い、子どもが危機に対し自ら回避できる能力を育む。
 - (2) 安全な社会づくりに貢献できるよう、ボランティア活動等に取り組み、様々な対応力を育む。
- 2 教職員が必要な知識の習得と技能の向上を図り、個々の教育的ニーズに対応する。
 - (1) 「個別の教育支援計画」等の一層の活用を図るとともに、一貫したキャリア教育を行い、適切に進路選択に取り組む。
 - (2) 多様な課題について研究し専門性の向上を図ることで、子どもたちが変革する社会で生き抜く力を育む。
- 3 地域の学校園とつながりを深め、センター的機能を充実する。
 - (1) 地域の学校園からの聴覚障がいに関する多様な相談に対し、適切な支援を行う。
 - (2) 地域の学校園等と連携し、在籍する児童生徒の指導方法及び就学前の子どもへの支援の充実を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>保護者の回収率は57%。児童・生徒からの回収率は51%。</p> <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒が「学校に行くのが楽しい」の問いに対し満足度が75%、「お子さんが学校へ行くのを楽しみにしている」の問いは保護者の満足度は79%。昨年度比較しても概ね同様の数値であった。 ・児童・生徒が「先生は私たちのことを大切にしている」の問いに対し満足度は67%。保護者の「お子さんは、授業が分かりやすく楽しいと言っている」という問いは満足度が58%であり、昨年度比較して概ね同様の数値である。ただし、選択肢3：そう思うところもあると回答したのが25%あることから、一概に授業の充実不足が大きな起因でないことが考えられる。 ・保護者が学校行事に参加したことがあるとの回答89%で、教育活動に興味・関心が非常に高いことが示されている。 <p>【進路指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」の問いの満足度は61%、保護者の「学校は、将来の進路等について適切な指導を行っている」の問いの満足度も61%。情報提供について努力しているかという問いは69%（前年度61%）となっており、昨年度よりも微増した。しかし、様々な方面での情報発信不足が否めなく、より充実した進路指導を行う方策を早急に検討する必要がある。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の「担任の先生以外にも相談できる先生がいる。」という問いの満足度は49%であり、4%減少した。しかし、「思わない」と回答したのが5%であることから、児童・生徒と教員の信頼関係等に大きな問題はないと考えられる。 ・子どもたちに生命の大切さ等を守る態度を養おうとしているかの問いは満足度が79%。昨年度比較で4%増であるが、引き続きSPS認証後の取組が一層必要であると痛切に感じた数値である。 ・先生の手話等がわかりやすいかの問いの満足度は75%。昨年度よりも4%減少しており、コミュニケーション向上のために校内手話講習会の継続実施の必要性を感じている。 <p>【教員の勤怠】一斉退庁日の設定について要検討。</p>	<p>第1回（5月16日）【学校経営計画について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期的目標2（2）の「多様な課題」について。デフリンピックの知名度が上がっているので、スポーツについても考えてほしい。勉強、スポーツ、友だちという目標を持ち、夢にむかってがんばってほしい。 ・避難訓練について。生徒中心に計画・実施する指導に期待している。 ・ICTを活用した学習について。テクノロジーを活用するとともに、基礎的な読み書きの力はしっかりと育てなければならない。社会に出ても必ず必要となる。 ・プログラミング教育について。きこえない子どもに合わせた方法を工夫して指導できるのが豊学校の強みである。 ・一般常識やルールを身につけることの大切さについて。指導する教員自身もマナーを学ぶ必要がある。 <p>第2回（10月24日）【学校経営計画（中間評価）について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練はマニュアル通りに行うだけでなく、状況に応じて柔軟に対応できる力や判断力を育ててほしい。また、多くの情報が提供される中から必要な情報を受け取れるように学んでほしい。 ・本校は「手話とともに未来へ」というスローガンを掲げている。今後も手話を大切に教育を実践してほしい。 ・各種検定試験や全国学力テストについては、積極的にチャレンジして自信をもってほしい。 ・PTAでも手話学習会を行っているが、教員も校内で手話研修を受けることができるので、手話力の向上を期待する。 <p>第3回（2月21日）【学校経営計画（最終評価）について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SPS認証校として子どもたちが安心して通学でき、落ち着いて過ごせる環境作りや設備の充実をすすめてほしい。 ・校区が広い本校は地域との連携・協力を、今後も地道に継続していくことが必要である。 ・子どもの個性や希望にあった進路選択ができるよう、教員の指導力をさらに高めるための学部間の交流や学校運営協議会委員も含めた授業見学などの工夫を試みてほしい。 ・次年度は創立120周年を迎える。歴史ある本校の建学の精神を引き継ぎ、手話を守り育ててきた本校の特色を活かした教育を実践してほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価 ※ 最終評価基準 (◎) 目標を上回って達成した。 (○) 目標どおりに達成した。 (△) 取り組んだが目標を達成できなかった。 (×) ほとんど取り組めず目標も達成できなかった。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 安全で安心して学べる学校づくりを進める。	(1) 関係機関等と連携し安全に対する意識変革を行い、子どもが危機に対し自ら回避できる能力を育む。 (2) 安全な社会づくりに貢献できるよう、ボランティア活動等に取り組み、様々な対応力を育む。	(1) SPS 認証校としての責務を担うとともに一層推進できるよう、専門家等からの助言を受け、より効果的な避難訓練(火事、地震、津波)を実施し、意識と行動の変革を行う。中高の生徒会に訓練を1学期に企画させ、2学期に実施し、3学期に成果課題をまとめさせる。 (2) 「自然・環境づくり」、「まちづくり」等のボランティア・グループを1学期に立ち上げ、活動を地域と協働し社会貢献等を行い、自発性及び公共性の精神を育む。	(1) ア 年30回の訓練の実施(安) イ 子ども等へのアンケートを実施し「安全に対する意識や行動が向上し、訓練が役になった」との回答率を80%とする。(安) (2) ア 各グループ活動を年間10回行う。(各学部) イ アンケート実施「ボランティアを通して自発性等が芽生え、社会で貢献できる力がついた」という回答率を80%とする。(各学部)	(1) ア 今年度は25回の訓練を行った。実践的な訓練を行うことができたが、目標の30回には届かなかった。(△) イ アンケート結果79%の回答率であり、昨年に比べ約5%減であった。(△) (2) ア 高等部作業学習の授業において、地域清掃を学期に1回(2時間)実施した。各グループ活動は、10回行った。(○) イ 災害ボランティアや、地域の清掃活動などを通して、活動した結果、アンケートでは51%の回答率となった。(△)
2 教職員が必要な知識の習得と技能の向上を図り、個々の教育的ニーズに対応する。	(1) 「個別の教育支援計画」等の一層の活用を図るとともに、一貫したキャリア教育を行い、適切に進路選択に取り組む。 (2) 多様な課題について研究し専門性の向上を図ることで、子どもたちが変革する社会で生き抜く力を育む。	(1) ア 各学部で「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」のあり方を検討し、必要に応じて発達検査、学習に関する検査(読み書き、計算)を実施するために、専門家からの助言や先進的な取組実践校への視察など、指導力を向上させる。 イ 様々な進路選択ができるよう、発達段階に応じたキャリア教育に取り組み、各種検定等合格者を増やす。 ウ 大学体験等を積極的に取り組み、進路先を拡充する。 (2) 教職員としての知見を広めるために年休の有効的な活用を図るとともに、聴覚障がい等に係る合理的配慮を踏まえ、より効果的な保育・授業をICT機器を活用して、多様なニーズに即した指導ができるよう指導力の向上を図る。	(1) ア 左記を基にした全校で35回の研究保育・授業を実施し、他学部の授業を2回以上参観することで、今後の保育・授業に参考になったというアンケートから回答率を80%とする。(サ・夢) イ 児童・生徒の各種検定合格率を30%増にする。(教) ウ 大学等と連携し2校から指定校推薦枠等を獲得する。(夢) (2) 教職員の専門性の向上を図るために、「前年度より、ICT機器を活用して、より専門性の向上が図られた」という回答率を40%とする。(I・サ)	(1) ア アンケートの結果「参考になった」という回答が77%であった。(△) イ 各種検定の合格率は中学部は59%(10/17人)。高等部は63%(22/35人)小学部は88.8%(16/18人)であった。全体として62%であり、昨年度に比べ、6%減であった。(△) ウ 大学1校のみの指定校推薦枠を獲得した。専門学校等にも範囲を広げ、連携を進める必要がある。(△) (2) 「向上した」「やや向上した」の回答が61%であり、目標を大きく上回った。(◎)
3 地域の学校園とつながりを深め、センター的機能を充実する。	(1) 地域の学校園からの聴覚障がいに関する多様な相談に対し、適切な支援を行う。 (2) 地域の学校園等と連携し、在籍する児童生徒の指導方法及び就学前の子どもへの支援の充実を図る。	(1) 他都市教育委員会等と連携し地域の学校園の指導力が向上するよう、積極的に相談に応じ、聴覚障がい教育の理解啓発に取り組む。 (2) 聴覚障がい担当教員や養護教諭等を対象にした研修会を実施し、適切な指導・支援の充実を図る。	(1) 相談総数(前年度578件)を10%の増をめざす。(サ) (2) 研修会等を年3回以上実施し、参加教員から「個々のニーズに応じた指導するうえで、『非常に役に立った』」との回答率を80%とする。(サ)	(1) 今年度の相談件数は1月末で427件であり、昨年度に比べ約14%の減であった。(△) (2) 「聴覚障がいのある幼児・児童・生徒の担当教員研修会」「養護教諭セミナー」を8月に実施。「みみネットアカデミー」を12月に実施。研修会後に実施したアンケートの結果、参加教員から、「非常に役に立った」との回答率が88%であった。(◎)